SHIN-KUKI DISASTER NEWS VOL.3

多数の傷病者が同時に発生したらどうするの？？

皆さん、こんにちは。新久喜総合病院災害対策委員会の伊藤です。
第 3 弾は、災害現場や救急外来などでよく使われている用語**「トリアージ」**と**「トリアージタッグ」**の取り扱い方法についてご紹介したいと思います。





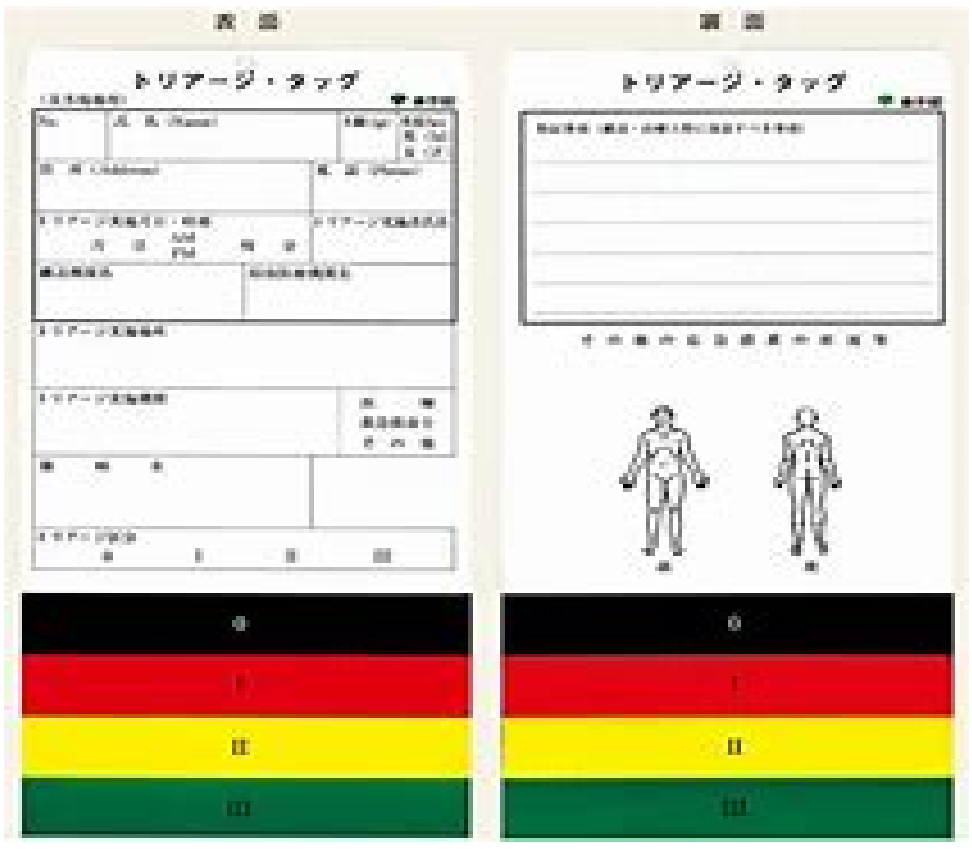
災害時に多数の傷病者が同時に発生した場合、傷病者の呼吸、循環、緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うために、傷病者に治療の優先順位を決めることを**「トリアージ」**といいます。トリアージとはフランス語の「triage」から由来しており、選別を意味します。「すべての傷病者を治療することができない」極限の状態のみ行われる行為になります。本来の医療の全ての患者を平等にみるという原則からは例外になるということを念頭に置くようにしましょう。

トリアージする際は、一次トリアージに**「START 法」**2 次トリアージに**「PAT 法」**という方法を用いて黒・赤・黄色・緑の色を選択していきます。vo1 で紹介していた院内防災訓練で救護場所が色別されていましたね。トリアージの際に、傷病者の重症度や緊急度をわかりやすく表示したものを**「トリアージタッグ」**といいます。

トリアージ区分

時間と共に状態は変化する

順位	分類	鑑別色	傷病状況
①	最優先治療	赤色（Ⅰ）	緊急治療の適応がある者
②	非緊急治療	黄色（Ⅱ）	治療の必要はあるが待機可能な者
③	軽処置	緑色（Ⅲ）	入院治療の必要性はない軽症者
④	不処置	黒色（0）	治療の適応がない者



トリアージタグの意義

どの傷病者の治療優先度が高いのか一瞬で識別できます。
状態は変化するため、トリアージは継続的に行われます。再トリアージをした際、前のタグはそのままつけておき、新しいタッグを追加でつけるように定められています。
診療記録としての活用もできるため傷病者の識別事項（名前・性別・連絡先など）の記録が可能です。傷病者は災害現場、医療機関入口、救急室など移動しながら別の救助者によりトリアージ、搬送や診療を受けます。
タッグは災害現場用・搬送機関用・収容医療期間用の 3 枚綴りになっています。

タッグをつける場所は右手首が原則です。

その部位が負傷しているときは、左手首→右足首→左足首→首の順で部位を変えましょう。衣類や靴などにはつけないようにしましょう。

「助けられる命を確実に救う」

災害現場には、想像もできないくらいの沢山の傷病者が発生します。その時に必要なのことがトリアージです。最優先すべき人の順位をつけていかなければならず、非常に重大で繊細な仕事になります。阪神淡路大震災では、多くの傷病者が病院に一時期集中したため、重症度の高い人の治療を受けられずに亡くなられた方が多数でました。
1996 年災害医療体制のあり方に関する研究会においてトリアージタッグの標準化が検討され、標準的トリアージタッグが公表されました。
今回、紹介したトリアージとトリアージタッグの取り扱いを覚えていき、今年の 10 月に予定されている防災訓練に参加して一緒に実践しましょう。



文責：災害対策委員会　伊藤　愛　（発行：令和 3 年 7 月 12 日）